

# 森の会 茶志骨 「標津町」



## 子どもたちが誇りを持てる田舎に

標津町は知床半島の付け根に位置する、人口約5300人の過疎の町です。産業は酪農と漁業が中心で、乳牛が2万3000頭、肉牛が600頭ほど飼育されています。またかつてはサケの水揚げ日本一を誇った時期もありましたが、近年は前年割れが続いています。自治体は最近では観光に力を入れています。

茶志骨(ちゃしこつ)地区は、茶志骨・東茶志骨・茶志骨パイロット・浜茶志骨の4町内からなる集落です。この地域には森が残っていて、森の中を一本の山道が通っています。自動車が行き交えないほどの細い道ですが、道端からはミズバショウの大きな群落や、手つかずのアカエゾマツ林、トドマツ林、広葉樹林が広がって見えます。映画「となりのトトロ」に出てくる里山にそっくりなので、地元の人たちは「トトロ道」「トトロの森」と呼んでいます。

しかし新たに舗装道路ができたために、トトロ道はあまり使われなくなり、道を囲むトトロの森とともに、だんだん荒廃してきました。そこで地域住民が「森の会—茶志骨」を設立し、トトロ道とトトロの森の整備を行なうことにしました。

加えて、近くには休園中の「茶志骨みどり保育園」がありますが、建物をそのまま利用し、周囲に実のなる樹種、ミズナラとかサクランボとかクルミとかを植樹して、リスなど野生動物の姿も観察できるような、憩いの森をここに再生したいと考えています。私たちはこの地域を、地元の子どもたちが誇りを持てる田舎にしたいのです。

## 大きな反響、深まる理解

まず、標津町において、トトロ道に自動車の退避場を兼ねた駐車場を5カ所造ってもらい、ここを林内作業の拠点にしました。

研修活動の一環として、北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会が仁木町で開催した安全講習会に参加しました。また後日、それにならって地元でもチェーンソー技術の講習会を開きました。

事前に樹種などの現況を調査した結果を踏まえ、メンバーたちが森に入って、枯損木の処理・下草刈り・間伐・枝払いと、伐採木の搬出などを実施しました。

きれいになったトトロ道を使って、さっそく「森の生き物観察会」やハイキングを実施しました。講師には、

地元在住のハンターで、小説『罨撃ち』の作者としても著名な久保俊治さんをお招きしてお話を聞きました。

野外イベントでは、薪ストーブの一種である「ロケットコンロ」を使って昼食を楽しむことにしています。ロケットコンロを使うと、ほんの少量の薪で強い火力が得られます。ダッチオーブンと組み合わせれば、数分でパンが焼き上がります。道外から家族づれで参加してくれた人もいて、盛況でした。このイベントのようすは『釧路新聞』にも取りあげられました。

また数回にわたって木工教室を開きました。一般参加者を募り、トトロの森の材料を使って、ボードコールやコースターなどを製作しました。特に好評だったのは「お箸作り」です。木馬を作った時は、地元の標津認定こども園「あおぞら」に、完成した木馬10台を寄贈しました。

旧保育園のエリアでは、これまでにサクラ30本、ミズナラ100本、クルミ30本の苗木を植栽しました。活着がやや弱いようだったので、秋に森からクルミの実を拾ってきて補植を行ないました。

こうした活動を通じて土地所有者や地元企業の理解もいっそう深まってきたと思います。むしろ反響がちょっと大きすぎて、森でのイベントの参加者を募るとたくさん申し込みがあり、自分たちの対応が追いつかないほどになっています。

トトロ道・トトロの森の環境保全とともに、組織づくりもしっかりやっていきたいと考えています。



報告者

大石 正則さん

